

五月人形 丸平と永徳齋

2015年4月14日(火)―5月17日(日)



大正から昭和初期にかけての東西を代表する人形師、京都の丸平大木人形店の4世大木平蔵(1885-1941)、5世大木平蔵(1885-1941)、東京の人形司永徳齋の2代山川永徳齋(1858-1928)、3代山川永徳齋(1865-1941)によって制作された、鍾馗・武者・飾り馬などの五月人形の優品を陳列いたします。

3代山川永徳齋(1865-1941) 鍾馗
昭和時代・20世紀 個人蔵

香の道具

2015年4月14日(火)―5月17日(日)

香は仏教の儀式で用いられ、仏前を清め邪気を払うと信じられてきました。平安時代には香を焚きしめうつり香を楽しむことが貴族の間に広まります。そして香を鑑賞する寄合が茶や花とともに始まり、やがては香道となっていきます。当館の所蔵、ご寄託の作品から、香合・香箱・香炉など香に関わる道具を展示いたします。



蒔絵 小犬形香合 江戸・明治・19世紀
本館蔵(カザールコレクション)

清風の茶、煎茶の美

2015年4月14日(火)―5月17日(日)

江戸～明治時代にかけて大坂(大阪)と京都を中心に、抹茶の「茶の湯」とは異なるお茶、葉茶からいれる「煎茶」の楽しみがありました。涼炉・茶注(急須)・茶心壺・煎茶碗・水注など煎茶人たちの美意識を反映した作品や、煎茶書・茗謙図録を展覧します。



「第1席喉潤」
『青濁茶会図録』
田能村直入編
江戸・文久3年刊(1863)
大阪市立美術館
谷村為海煎茶関連資料

動物と美術 ―日本画と工芸―

2015年4月14日(火)―5月17日(日)

当館に隣接する天王寺動物園は、本年1月1日に開園100周年を迎えました。これを記念し、館蔵・寄託の近代日本画および東洋の工芸の中から動物をあらわした作品を展示いたします。美術に見られる動物たちの愛らしい姿をお楽しみください。

※表紙掲載の「朝霧」も展示予定

灰陶加彩 駱駝 北魏時代・6世紀 本館蔵



燕文貴
江山樓觀圖(部分)
北宋時代・11世紀前半
本館蔵
(阿部コレクション)

山水 ―中国書画

2015年5月19日(火)―6月21日(日)

山水は中国画において最もよく描かれる主題のひとつです。描かれた山水は、神仙の住まう聖域として、また隠棲の理想の地や憧れの景勝地として、鑑賞者の心をとらえつけてきました。このたびは本館の所蔵および寄託の作品から、山水を中心とした優品をご紹介します。

経典

2015年5月19日(火)―6月21日(日)

当館は田万コレクションに含まれる経典などを所蔵するほか、関西地区の寺院や個人からも優品が寄託されています。このたびは、中国隋・唐の影響を受けた謹厳端正な書風の奈良時代から、和様化した温雅優美な書風を示す平安時代にいたる遺品を展覧します。



華嚴経断簡(二月堂焼経) 奈良時代・8世紀 本館蔵(田万コレクション)

遊楽と美人

2015年5月19日(火)―6月21日(日)

寺社などの名所とは異なる非日常的な遊楽の空間―遊里。豪壮な数寄屋風邸宅の内外に、酒宴やさまざまな遊戯に熱中する人々の姿を描いた「邸内遊楽図」、一人の遊女の立姿だけをクローズアップした「寛文美人図」など、江戸時代初期に流行した遊楽図と美人図をご紹介します。

邸内遊楽図(部分)
江戸時代・17世紀 本館蔵



四季を愛でる

2015年5月19日(火)―6月21日(日)

四季にうつろう自然の美しさ、はかなさを愛でる繊細な心情は、美術、文芸など日本の芸術に通底する独特の美意識です。「雪月花」、「花鳥風月」に象徴されるさまざまな自然の風物をはじめ、四季とそのうつろいを抒情豊かに表現する絵画作品をご紹介します。



徒然草絵巻(部分)
土佐光起
江戸時代・17世紀
個人蔵